

1 研究主題

児童生徒が自分の力を活かせる授業づくり（1年次／3年計画）

2 主題設定の理由

（1）児童生徒の実態から

本校は病弱に応じた教育を行う特別支援学校（小学部・中学部・高等部）であり、通常の学校に準ずる教育課程から自立活動を主とする教育課程までの児童生徒が在籍している。発達障がいや精神疾患のある児童生徒、医療的ケアを必要とする児童生徒の在籍が増加しており、障がいの重度・重複化により、実態は多種・多様化している。そのため、障がいによる学習上又は生活上の困難も「身の自立」「集団参加」「自己理解」など多岐にわたる。

生命を維持することが生活のベースになっている、様々な経験が不足している、興味・関心や社会的視野が狭い、人や社会とつながりたい気持ちはあるがどうつながって良いかわからない、といった児童生徒の実態や課題に応じて、学習内容や支援の方法を工夫し、学校教育活動全体を通して児童生徒一人一人の心身の調和的な発達を促すための授業を行うことが必要である。

本校では学習環境を整えて、個々の実態を踏まえた学習をすすめており、教師とじっくりかかわることで安心を得たり、児童生徒同士でかかわることの楽しさを感じたりしながら、主体的に学習に取り組み、学習内容の積み上げを図っている。一方で、児童生徒同士の関係の中では緊張感が強くなり、同じ場にいることにも不安を感じてしまう児童生徒、また、病状から生活の場が制限されている児童生徒も在籍している。

（2）教職員が指導上思うこと、困っていることから

学校研究の主題設定をするにあたって、指導上思うこと、困っていることをあげてもらった内容が以下の通りである。（抜粋）

- 自立活動の流れ図の作り方、実態把握の仕方、自立活動の流れ図を作る時間の確保
- 自立活動の目標の立て方、指導内容、指導・支援方法
- 合わせた指導、各教科等の視点での授業の在り方
- ICTを使った授業、授業づくり
- 指導と評価の一体化

児童生徒の実態が多岐にわたること、根拠に基づいた授業計画の仕方、授業づくり全般、働き方改革が進められていること、などについて、教職員が不安に思っていること、課題と感じていることが様々あることが明らかになった。

(3) 学校教育目標、学校経営の重点から

本校の学校教育目標は、『「いのち」を大切にし、「まなび」を楽しみ、「つながり」をつくる人を育てる』である。また、学校経営の重点には「一人一人の病気・病状や障がい等を正しく理解」「学習指導要領の確実な実施」「主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善」「キャリア教育と進路指導の充実」が挙げられている。

児童生徒の実態、教職員が感じている課題、学校経営の重点から、学校教育目標の実現に向けてのキーワードは「授業づくり・授業改善」「個に応じた指導」「自立と社会参加」と捉えた。教職員が指導力を高め、児童生徒の課題に向き合い、授業実践を行うことで、学校教育目標にせまることができると思う。

3 研究のねらいと年次計画

本研究は、『児童生徒が自分の力を活かせる授業づくり』を主題とし、3年計画（表1）で、自立と社会参加ができる児童生徒を育てることをねらいとする。

1年次は『試行・土台作り』として学習指導要領に基づく目標設定の仕方をサブテーマに進めていく。2年次は『チャレンジ』とし、指導内容の設定の仕方、3年次は『定着』として指導と評価の一体化をサブテーマに進めていく。

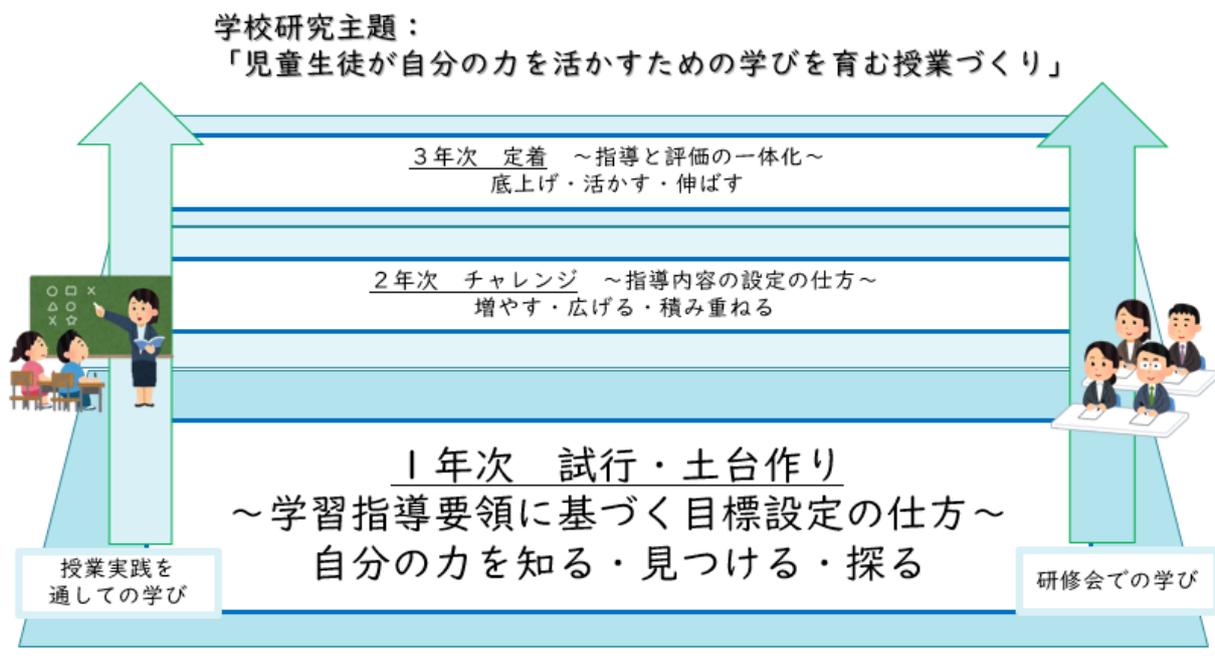


表1 本研究の年次計画

4 研究の組織

